

「指導員アンケート」の まとめ

編集部

* 回答いただいた方のお名前、地域名は掲載して
いませんが、回答の性質上、必要なもののみ、
経過主体を付記しています。

本誌のモニターおよび連絡
協議会を通じて呼びかけた指
導員の方々に協力していただ
き、アンケートを行いました。
内容は、「学童保育での生活の
様子」「感染症対策の取り組み」
「子どもたちの様子」「利用を
自粛した家庭との関わり」「保
護者との連携・協力」「担当課
との連携・協力」「学校や関係
機関・地域からの支援、連携、
協力」「今後の課題」「指導員
の仕事について思ったこと、
考えたこと」(自由記述)。二
〇二〇年七月一七日の時点で、
一二三件の回答をお寄せいた
だきました。

回答の一部を紹介し、「学校
『臨時休業』中の学童保育の様
子と課題として見えてきたこ
と」をまとめます。

学童保育での生活づくり・ 感染症対策の取り組み

〈感染症対策〉

マスクの着用、手洗い、う
がい、換気、換気、共用部分
の消毒などの基本的な感染症
対策は、すべてのところで取
り組まれていました。「新型コ
ロナウイルス感染症」につい
て学んだり、学童保育で一日
過ごす理由を子どもたちとた
しかめあう機会を設けたこと

も多くありました。

◇「自分の身を守る、そして
他人も守ること」を子どもた
ちも確認しつつ、感染症対策
に取り組みました。

◇基本的にはマスクを着用し
たうえで、熱中症や酸欠のリ
スクも子どもに伝え、動いて
いて暑しいときなどは外す
ように伝えている。

◇遊びの際は過剰な言葉かけ
を避け、換気など環境面での
対応を心がけた。

◇ていねいに説明することで、
「水分補給の時間だよ」と声
をかけるだけで飲んでくれる
ようになったり、自分の体調

に応じて自主的に水分補給を
行ってくれるようになりました。
た。

◇「手を洗わなかったらコロナ
になるよ」など、恐怖心をあ
おるような言い方は意識して
避けています。

◇子どもも確認したルールを、
保護者にもお手紙で配布し、
情報共有に努めた。

回答では、日常生活に必要
なこと、その必要性を子ども
自身が納得し、身につけてい
けるように配慮・工夫する様
子が寄せられました。

〈おやつ・昼食〉

「個包装のものに変更」「水
筒の持参」「当面、手づくりを
中止」「テーブルにつく人数を
少なくして、向かいあわせを
避けて座り、おしゃべりはし
ない」を行ったところが多く
ありました。

そうした状況のなかでも、
「リクエストおやつの実施」「昼
食は『青空弁当』と称して、
グラウンドや中庭で食べる」
など、子どもにもとって栄養面
や活力面から必要とされるお
やつや食の時間が楽しいもの
になるように工夫している様
子も寄せられました。

〈遊び〉

多くのところが「外遊びを
積極的に取り入れた」と回答
していましたが、室内だけで
過ごすざるを得なかったこと
ろ、「外遊びは禁止」としたこ
ところもありました。

遊びの内容や道具は、制限
を設けている、感染症対策を
行いつつできるだけ制限して
いない、に分かれました。

◇折り紙の使い方が少し豪快
かな……と思うこともありま
したが、「ダメ」「やめて」は

言わずに、見守りました。

◇ブロックを一人ずつ使用で
きるように袋で小分けにし、
折り紙、ぬり絵なども袋詰め
して各自に渡した。

◇集団でふれあうような遊び
は避けています。

◇トランプ一枚一枚、ブロッ
ク一つひとつを完全に消毒
できない。換気、手洗いが
い、マスク着用を心がけて、
遊びはいつもどおりとした。

◇学校で禁止されている
「サッカーやオニごっこをし
たい」という希望が多く出る

れます。サッカーボールを追
いかけるのは一人だけ、オニ
ごっこはエアタッチなど、学
童保育でのルールをつくりま
した。

◇室内ではマスクを着用し、
密接や向かいあうことを避け
られるように机を配置し、遊
具は消毒可能なもののみを選
別した。遊びの内容によつて
部屋や時間を区切った。

◇校庭の草原にブルーシート
を敷いて、草花を集めてま
まごと、花見をしたり、カード
ゲームを楽しんだ。

なお、指導員の合意形成を
図ることについて、つぎのよ
うな声も寄せられています。

◇マスクの着用、激しい遊び
をどこで止めるか、密着し
ているときにどこまで声を
かけるかなど、指導員間で
も考え方が異なった。子ども
も実際に関わり、同僚の

対応を見ながら、各自が大
事に行っていることや迷うこ
とを話しあい、着地点を探
すことのくり返しでした。

子どもたちの様子

つぎのように多様な状況が
多く寄せられています。

◇利用自粛期間中に学童保育
に導くことに引け目を感じて
いる様子がうかがえたので、
「どうして学童保育があるの
か」を話し、「遠慮すること
ではない」と伝えました。安
心してほしかった。

◇「〇〇ちゃんの卒業式の服
見たかったな……」。出席で
きなかった在学生の言葉にせ
つなくなりました。

◇当初は楽しそうに生活して
いましたが、しだいに無気力
になつていつたように感じま
した。イライラしたり、いやな



発行＝全国学童保育連絡協議会



ことを言ってしまうたり……。
相手を思いやる気持ちを、一
緒に再確認しました。

◇少人数でじっくり遊ぶこと
が増え、新しい仲間関係がで
きたり、遊びが深まったりし
て、四月後半頃には、大半の
子が「毎日学童だけでいい」
と言うようになりました。「心
配だつたりがまんしているこ
と、いやだと思ふこともある
のでは」と心配りしてしまし
たが、そうした言葉はほぼあ
りませんでした。

◇レストランなどで入店前
に検温をしていたり、営業時
間が短縮されていたりと、遊
びにもいまの状況が反映され
ていた。

◇利用を自粛した子どものな
かには、家から一步も出てい
ないという子も多くみられま
した（とくに高学年に多い）。
子ども自身が出たがらず、親

が「散歩でもしょうか」と誘っ
ても、「マスクしてるから大
丈夫」と言っても、外出しよ
うとしないとのこと。子ども
たちに尋ねると、「誰も外出
してないし、外に出るのは
ルール違反だ」という思いが
強いようでした。

◇緊張がつづくなかでも、
ルールで縛らず、過度な緊張
や不安を与えずに、安心感を
持てる生活がおくれるよう配
慮した。子どもたちは、ゆっ
たりのんびり過ごし「もつと
休みが延びたらいいな」。な
お、神経質に数分おきに手
を洗うようになった子もいて、
心のケアの必要性も感じた。

◇オンラインゲームで子ども
たちがつながり、「昨日、遅
くまでやっていた」という話
がたくさん聞かれる。ゲーム
の世界から呼び戻すのに苦労
しそう。

◇利用を自粛していた子ども
のなかには、身体を動かす機
会が少なかったのか、体重が
増えていたり、走ったりする
のがきこまなかったりした子
もいた。再び学童保育で過
すようになった際にはケガに
十分に気をつけた。

〈利用を自粛していた子ども・ 家庭との関わり〉

◇休んでいる子の話題を学童
保育の生活のなかにちりばめ
るなど、休み明けに来たとき
に居場所にこもらないように、
関係づくりを意識した保育を
行つた。

◇「なにかあつたら子どもも
保護者も遠慮せず学童保育に
連絡してほしい。一人で抱え
込まず、保護者同士、保護者
と指導員が支えあひながら乗
りきりましょう」と家庭にく
り返し伝えた。

◇連絡事項は連絡網で全世帯
に伝える。利用自粛が長期に
わたる子には、指導員が連絡
をとって状況を確認したこ
もあつた。

◇関わりは持てませんでした。
余裕もなかったし、どう関わ
るのか、迷いもありました。
手紙を届けに行つた際に少し
言葉を交わした家庭が数件あ
り、それだけで感謝してい
ただいたので、すべての家庭に
できることはなかったであらう
かといまでも思います。

◇子ども宛ての手紙（ハガキ
やメッセージカード）を郵送
しました。子どもや保護者の
方からもお返事をいただいた。
◇学童保育のおたよりなどを
郵送で届けた。

◇家庭での子どもの様子をう
かがい、おたよりに載せて共
有しました。

◇自宅でもできそうな工作の

紹介。学童保育での感染防止
策も報告した。

〈保護者との連携・協力〉

「利用自粛への協力」「学童
保育を訪れた際の感染症対策
への協力」「備品や遊び道具の
提供」「買い出しの協力」「施
設周辺の草むしりを有志で
行つていただいた」「指導員へ
の気遣いやはげまし」など、
保護者（OBも含む）のさま
ざまな協力や支えがあつたこ
とが寄せられました。

担当課との 連携・協力

◇助成金などの申請書類作成
時には親身になって説明して
くれ、可能なところは事前に
記入しておいたり、不備があ
つた際には適宜連絡をくれ
て、現場の労力を軽減する配
慮があつた。（父母会運営）

◇役所は土日が休みで、翌週
からの対応がわからないとき
も、週明けを待つしかなか
つた。（父母会運営）

◇自治体から保護者宛てに発
出する文書の内容に、現場の
意見を反映してもらいました。
自治体の職員の応援派遣も
あつた。担当課が午前中の学
校預かりを要望してくれたこ
とで、五月の連休明けに二週
間実施され、精神的にも体力
的にも救われました。（公営）

◇行政からの配布物の表現な
ど、もつと打ちあわせができ
ればよかったと思う場面も
あつた。備品の調達は担当課
が行つたが、ほしいものとは
違ふものが届き、とまどうこ
ともあつた。（公営）

◇職員の悩みやこまっている
ことをヒアリングしたり、現
場の視察を行つてはしかつた。
（指定管理者制度）



◇毎日、利用状況の報告を担
当課に送り、担当課からも随
時、情報提供があり、積極的
に対応していただいた。備品
の配布、企業に寄付を募つて
物資の提供もあつた。学校で
の一時預かりに尽力してくだ
さるなど、一生懸命な様子が
印象的だつた。（父母会運営）

◇四月に分割にもなう施設
の移転を行つた際には、担当
課の方がお休みを返上して手
伝つてくださった。担当部長
が、各学童保育を訪れてねぎ
らいの言葉をかけてくださり、

備品不足を伝えると手配・配
布してくださった。現場の苦
労に心を寄せてくださる様子
は、指導員の安心や支えに
なつた。（父母会運営）

◇二月末に教育長から「開所」
の要請があり、スムーズに準
備ができた。日頃から、担当
課と連絡を密にとりあつてき
た成果と思われる。（指定管
理者制度）

◇四月以降の保育料を自治体
が日割りで補助してくれた。
（社会福祉法人運営）

◇自治体の方針が示されず、
各学童保育で判断せざるを得
ず、対応にとまどつた。休所
を決めたところには担当課か
ら直接「開所」の依頼があつ
た。（父母会運営）

◇校庭利用の時間指定があり、
「周囲の目もあるから、なる
べく体育館を使つてほしい」
とも言われた。自治体として、





◇小学校は「全児童対策事業」を行っているとのこと。施設を貸してもらえなかった。中学校や地域の集会所を借りることができ、四月末以降は広い遊びのスペースを確保できることもあった。

◇分散登校の報告や、子どもの様子を見るために校長先生や担任の先生が来所され、連絡をとりあうことができた。

◇学校の行事予定や下校時刻の変更が学童保育には知られず、大変ご迷惑でした。

◇地域から苦情があっても、「大丈夫。外で元気に遊ばせてあげて。苦情は学校で受けろ」と言ってくれた。

◇毎日、小学校の先生方が遊具の消毒を行ってくださっていました。知らずにいたので、大変申し訳なかった。今後は、もつと気をつけなければと思います。

や諸団体から、備品や昼食、おやつ提供があったとの報告も多数寄せられました。

◇副校長が登所している子の名前を聞きに来て、留守番している子には学校からも様子を尋ねてくれました。

◇学校の先生方は学童保育に来てくれませんでした。正直、孤独感でいっぱいでした。学童保育連絡協議会のありがたみをととても感じました。

◇公営の学童保育の子どもは朝からの学校預かりがあったのですが、民営の学童保育の子どもは預かってもらえませんでした。

◇三月、四月はグラウンドの使用許可がおりず、五月に再度お願いに行くと、ようやく「敷設」「距離を保つて校庭を歩く」許可が出ました。

◇学校からマスクや消毒薬の提供があった。

れました。(法人運営)

◇担当課とやりとりする窓口は「学童保育連絡協議会」が担い、私の職場から直接連絡することはありませんでした。窓口を一本にして意見・要望を集約しないと、お互いにバクシクしてしまいます。混乱している様子がうかがえる内容のFAXが市からたびたび届いたので、大変さうだなと感じていた。(父母会運営)

学校や地域との連携・協力

学校との連携・協力の実態は、地域によって大きく異なりました。「三密」を避けるために、学校施設を借りられたところが複数ありました。同じ市町村内でも、校庭利用の判断や協力関係の有無などが異なる場所もありました。

地域の方々や卒所生、企業

学校や地域の方々に説明してほしかった。(NPO法人運営)

◇三月に行政関係者が視察に訪れて「三密回避」は厳しいと判断し、一五時までの学校預かりが四月から行われた。(NPO法人運営)

◇利用自粛に関わる費用(保育料の返金など)はすべて自治体が負担することになった。(父母会運営)

◇はじめてでとてもいいもあったと思うが、現場の様子をまったく確認せずに、提出用紙だけバンバン送ってくるのはどうかと思う。(父母会運営)

◇備品は自治体が一括購入・配布し、代替品も貸し出され、職員も派遣されました。「緊急事態宣言」延長を見越して、五月の連休明けに、自治体として利用自粛要請の延長を決定し、保護者に文書が配布さ

にまつこと。今後の課題

◇父母会を行わず、家庭への連絡が不十分があった。

◇備品や人員不足が生じ、事故が起きるのではないかとヤビヤしていた。

◇施設が狭く、「密」を避けることができません。

◇養育した子どもが安静に過ごせて、かつ隔離できる場所が確保できなかった。

◇水道が台所にしかなく、手洗いの際に長蛇の列ができる。現在、自治体に要望中。

◇週六日間の超過勤務でなんとか開所してきたが、先が見えないなかで「自分が倒れるわけにはいかない」と精神的なつらさがありました。

◇休所をした間の指導員の給料補償が十分ではなかった。

「生活していけるの？」と不安になりました。

◇指導員間で情報共有を行う時間が取れなかった。

◇出席人数によってはシフトを削らざるを得ず、非常勤指導員は、収入が減ってしまった。出席が急に増えたときには人手が足りなくなり、非常勤指導員が超過出勤になってしまった。

◇卒所した四年生の子どもたちが、四月一日からの行き場を失った(通常対応している児童館は休館)。

今後の課題

◇集団の規模の上限と、施設のあり方を、子どもを守る内容にしていくこと(市区町村の基準条例の改正)。

◇一日保育ができる指導員体制を常に整えられるようにすること。

◇第二波に備えて感染防止に必要な備品をいまから手配しておきたい。

◇非常事態の際の判断についての基本的な考え方、連絡方法などをまとめる。

◇根拠のある情報を提供している機関からの情報入手を心がけ、正しいエビデンスにもとづいた冷静な対応が大事だと思います。

◇マスクを着用しつつの熱中症対策。

◇行事について、安全に開催するにはどうしたらいいか、開催することで批判が起きないか……。検討中。

◇指導員の研修などの再開。

◇集うことが困難ななかで、保護者会・父母会をどのように継続していくか。

◇学校の担当課とも懇談を行い、学童保育の役割を伝え、連携・協力関係を築いていく

こと。

◇地域の方々の理解を得る。

◇指導員の仕事について
思うこと

◇子どもの話をゆつくり聞き、思いを受けとめることで、少しおちつく姿を見て、その大切さをあらためて感じました。

◇正規指導員はもろろんのこと、パートやアルバイトの方々の協力があり、今回ほど「一人ではできない」と思ったことはありません。それだけに、指導員の労働環境の改善も早急に進めていかねばとあらためて感じています。

◇保護者が安心して就労できるように、子どもを保育することの責任を強く感じるとともに、「いつ感染してもおかしくないのでは」という心配が常にあった。

◇もし自分が感染したら多大

な迷惑をかけることになる」と考えると、勤務中以外の行動も慎重にならねばと思う。学校休校＝学童保育所とならないのはなぜか。「三密」や集団感染の防止を考えると、学童保育も休所する必要があるのでは……。保護者の方々と子どもたち、祖父母の方々と、そして自分の家族、仲間の存在が私の支えです。

◇利用自粛協力で、子どもを心配しながら留守番させていたり、行きたいのに「行っちゃだめ」と言われてがまんしていた子がたくさんいて、本当に心が痛んだ。私たちの本来の役割ってなんだろう、この状況下で私たちになにができるだろうかずっと考えていた。

◇保護者の方が本当にこまった表情で、「どうやって仕事に行けばいいの」「お願いだから開けて」と必死におつ

しやっていました。子どもはもちろん、保護者の方にとっても大切な居場所なのだとあらためて感じました。体力的にも精神的にも苦しい時期もありましたが、保護者の方々の「学童を開けてくださって本当にありがとう」という言葉や、子どもたちの「明日も来たい!」という言葉と笑顔にとってもはげまされました。

◇周開からの「学童は大丈夫なの?」「開けてて大丈夫?」といった言葉に悩むこともあったが、いまできることをやつていくしかないと思ひに



言に聞かせながら、保護者の「がんばって!」「大変ななか、ありがとうございます」の言葉に支えられて働いてきた。

◇どんなに大変でも、短時間でも、指導員間の打ちあわせを毎日つづけてきたこと、常勤指導員を複数配置してきたことに大きな意味があったと思う。

◇働く保護者と子どもたちを支えられたことは誇りに思いますが、不十分な体制のなかでやりきるのは、本当に大変でした。四月後半、利用自粛を依頼し、児童数が大幅に減った日の夜から体調を崩して寝込んでしまい、自分が緊張状態のなかで限界まで働いていたことを知りました。普段から十分な体制が必要だと切に感じました。同僚、上司、保護者、子どもたち、学校の先生、みんなに支えてもらい

ました。足りないのは国の制度です。自由な時間がたつぷりあることで広がる子どもたちの可能性は、まだまだあると実感しました。

* * *

いまなお、社会全体と一人ひとりが努力を重ねつづけることが求められる厳しい状況下にあります。そのようななか、多くの方からくわしい記述の回答をお寄せいただきましたこと、心よりお礼を申し上げます。

「新型コロナウイルス」については、現時点では、未解明なことも多く、対策についても手探りの状況がつづいてることから、今回のアンケートでは分析は避け、いただいた内容の一端を紹介することにとどめました。今後の取り組みの一助にいただければ幸いです。

